

授業科目	外国語(英語)		担当教員	長谷部 晃	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	歯科技工士として必要な英語を理解し、国際的な情報を得ながら対応できる能力を培う。				
到達目標	歯科に関する用語、特に基礎専門科目で使用される単語と簡単な内容を図・写真を用いながら述べることを目標とする。具体的には英語で書かれた説明書や簡単な歯科医学文献の概要を説明でき、また英語によるコミュニケーションの必要な患者との最低限の会話を可能とすることを旨とする。				
テキスト・参考図書等	最新歯科技工士教本 歯科英語 (医歯薬出版)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	55	試験の結果だけでなく総合的に判断する。 配分としては、試験 55%、提出物 30%、その他として取組姿勢 15%とする。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	30			
その他	15				
履修上の留意事項	教科書に準じて授業を進めるが、進度に応じて柔軟に対応する。文法的なことよりも、全員で教科書を音読、あるいは役割練習で英語を話すことにより英語に慣れることに重点をおく。恥ずかしがらずにできるだけ大きな声で音読しましょう。また歯科領域で重要な英単語を確実に覚えられるようにするため、1回目を除いてできるだけ毎回簡単な英単語の試験を実施する。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	Orientation なぜ「英語」が必要か Chapter 1 一般的な会話	歯科技工士として、英語を学ぶことがどのような意義を持つかを理解する。		
	2	知り合いとのあいさつ 歯科英単語、パソコンで「今日の英語」	あいさつは人と人とのコミュニケーションの基本である。基本的な英語での表現を習得する。		
	3	知り合いとのあいさつ 英単語確認小テスト、パソコンで「今日の英語」	あいさつは人と人とのコミュニケーションの基本である。基本的な英語での表現を習得する。		
	4	ホテルで急病になったとき 歯科英単語、パソコンで「今日の英語」	実際に海外に行ったときに起こり得る状況をイメージさせながら、基本的な会話パターンおよび簡単な専門用語を習得する。		
	5	ホテルで急病になったとき 歯科英単語、パソコンで「今日の英語」	実際に海外に行ったときに起こり得る状況をイメージさせながら、基本的な会話パターンおよび簡単な専門用語を習得する。		
	6	ショッピング 歯科英単語、パソコンで「今日の英語」	その場面をイメージしながら、基本的な会話パターンおよび簡単な専門用語を習得する。		
	7	ショッピング 歯科英単語、パソコンで「今日の英語」	その場面をイメージしながら、基本的な会話パターンおよび簡単な専門用語を習得する。		
	8	海外の展示会に参加する 歯科英単語、パソコンで「今日の英語」	その場面をイメージしながら、基本的な会話パターンおよび簡単な専門用語を習得する。		
	9	海外の展示会に参加する 歯科英単語、パソコンで「今日の英語」	その場面をイメージしながら、基本的な会話パターンおよび簡単な専門用語を習得する。		
	10	英語版アニメ映画 DVD 観賞(前半) 歯科英単語	英語版のアニメを観賞し日常会話の聞き取り練習をする。		
11	英語版アニメ映画 DVD 観賞(後半) 歯科英単語、パソコンで「今日の英語」	英語版のアニメを観賞し日常会話の聞き取り練習をする。			

	12	英単語総復習 歯科英単語、パソコンで 「今日の英語」	専門用語を習得する。
	13	海外の展示会に参加する 歯科英単語、パソコンで 「今日の英語」	その場면을イメージしながら、基本的な会話パターンおよび簡単な専門用語を習得する。
	14	海外の展示会に参加する 歯科英単語、パソコンで 「今日の英語」	その場면을イメージしながら、基本的な会話パターンおよび簡単な専門用語を習得する。
	15	英語学習用 DVD 観賞 名作アニメで英会話	英語版のアニメを観賞し日常会話の聞き取り練習をする。

授業科目	顎口腔機能学	担当教員	後藤田 章人		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8回	時間数	16時間
授業目的	顎口腔系器官の構造と機能、下顎位および下顎運動に関する生理学的知識について学ぶ。				
到達目標	顎口腔系の機能の基礎を述べることができるとともに、咬合器やフェイスボウの取り扱いができる。				
テキスト・参考図書等	最新歯科技工士教本 顎口腔機能学（医歯薬出版） 新編注解 国家試験問題集 顎口腔機能学（医歯薬出版） 歯科技工別冊 目で見える咬合の基礎知識（医歯薬出版） 臨床咬合学、補綴臨床に必要な顎口腔の基礎知識（学研書院）				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	試験 100%により評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	0				
履修上の留意事項	歯科技工士が仕事をするうえで必要な顎口腔機能の基礎と臨床における最低限の知識を学ぶものであるので予習、復習をその都度行うこと。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	1章 顎口腔系の形態	歯と歯列 顎口腔系を構成する骨・筋 顎関節 神経		
	2	2章 顎口腔系の機能	基準点・基準面 咬合に関する平面		
	3	3章 下顎位	咬頭嵌合位 中心位 下顎安静位 偏心咬合位		
	4	4章 下顎運動	基本運動 限界運動		
	5	4章 下顎運動	機能運動		
	6	5章 歯の接触様式	咬頭嵌合位・偏心位における咬合接触 咬合干渉		
	7	6章 咬合器	機構と分類 フェイスボウトランスファー 咬合採特 使用手順		
8	7章 咬合検査と顎機能障害	検査法 顎機能障害と対応			

授業科目	関係法規	担当教員	岡村 敏弘		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8回	時間数	16時間
授業目的	法の概念と体系、衛生行政を把握し、歯科技工士として必要な法令について学ぶ。				
到達目標	法律の概要を理解し、歯科技工士法の目的やまつわる法的意義を述べることができる。				
テキスト・参考図書等	最新歯科技工士教本 歯科技工管理学（医歯薬出版）				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	試験 100%により評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	0				
履修上の留意事項	法規には、難解な表現もあるため予習や復習に努めること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	10章 衛生行政	法律の概要 衛生行政の意義		
	2	10章 衛生行政	組織と活動		
	3	11章 歯科技工士法	目的 用語の定義 免許		
	4	11章 歯科技工士法	名簿 試験		
	5	11章 歯科技工士法	業務 歯科技工指示書		
	6	11章 歯科技工士法	歯科技工所		
	7	11章 歯科技工士法	違反行為と罰則		
8	12章 歯科医療関係法規	医療法 歯科医師法 歯科衛生士法			

授業科目	矯正歯科技工学	担当教員	菅原 由紀		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8回	時間数	16時間
授業目的	歯や顎骨および口腔周囲筋などに対するさまざまな対処と治療が必要とされる矯正歯科を理解し、それぞれの装置について学ぶ。				
到達目標	各種矯正装置製作に関する知識と製作方法を理解し、製作できる。				
テキスト・参考図書等	最新歯科技工士教本 矯正歯科技工学（医歯薬出版）				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	試験100%により評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	0				
履修上の留意事項	毎回小テストを実施するので復習を必ず行うこと。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	1章 矯正歯科治療とは 2章 矯正歯科技工学の意義と目的 3章 正常咬合と不正咬合	不正咬合による障害 技工の目的 正常な咬合の共通した性質と種類 個々の歯の位置、歯列弓形態、対向関係の異常 アングルの分類		
	2	4章 矯正歯科治療の進め方	矯正歯科治療の流れと技工の関わり 症例分析 矯正診断 動的治療 保定		
	3	5章 矯正歯科技工器具と器械	プライヤー 構成咬合器 電気点溶接器 加圧重合器・成形器 矯正用線 線鋸 フラックス 矯正用レジン		
	4	6章 矯正歯科技工の手技 1. 矯正用線の屈曲 2. 自在鋸付け 3. 矯正用レジンの使用法	屈曲の一般的原則と基本手技 自在鋸付けの一般的原則と手順 筆積み法 ふりかけ法 混和法 スプレッド法 モールド法		
	5	7章 矯正用口腔模型の製作 1. 矯正用口腔模型の種類と特徴 2. 矯正用口腔模型の製作法	平行模型 顎態模型 セットアップモデル 平行模型 セットアップモデルの製作法と製作上の注意点		
	6	8章 矯正装置の必要条件と分類 1. 矯正装置の必要条件 2. 矯正装置の分類	矯正装置の基本的な条件 口腔内で使用される矯正装置の所要条件 矯正力の働き方 固定源の場所 固定式か可撤式かによる分類		
	7	9章 矯正装置の製作法	舌側弧線装置 アクチバツール 咬合挙上板・斜面板 拡大装置ほか		
	8	10章 保定装置	ホーレーの保定装置 ラップアラウンドリテーナー トゥースポジショナーほか		

授業科目	口腔解剖学		担当教員	杉田 昭子	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数 60時間
授業目的	歯の概説・形態を十分に理解し、歯の発生、加齢、歯周、頭蓋の骨及び口腔周囲の筋について学ぶ。 また、顎関節の構造や下顎の運動について学ぶ。				
到達目標	口腔・顎顔面療育の形態、なかでも個々の歯の形をよく理解し歯や口腔・顎顔面領域全般のはたらきを説明することができる。				
テキスト・参考図書等	最新歯科技工士教本 口腔・顎顔面解剖学（医歯薬出版） 歯の解剖 歯のデッサンと歯型彫刻（歯科技工学実習トレーニング） カービングガイド				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	試験100%により評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	0				
履修上の留意事項	要点はすべて板書するので、ノートをきちんととること。 毎回小テストを実施する。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	1章 歯の概説	歯の定義 機能 生物学的特性 植立様式 外形と内形		
	2	1章 歯の概説	種類と分類 記号と歯式 名称		
	3	1章 歯の概説	形の概説（鑑別）		
	4	2章 永久歯 1. 切歯	上下顎中切歯 側切歯 相違		
	5	2章 永久歯 2. 犬歯	上下顎犬歯 相違		
	6	2章 永久歯 3. 小白歯 上顎	上顎第一小白歯 第二小白歯 相違		
	7	2章 永久歯 3. 小白歯 下顎	下顎第一小白歯 第二小白歯 相違		
	8	2章 永久歯 4. 大白歯 上顎	上顎第一大臼歯 第二大臼歯 後方推移		
	9	2章 永久歯 4. 大白歯 下顎	下顎第一大臼歯 第二大臼歯 後方推移		
	10	3章 乳歯 1. 乳歯の機能と特色	大きさ 歯冠 歯根 組織学		
	11	3章 乳歯 2. 乳切歯 3. 乳犬歯	上下顎乳中切歯 乳側切歯 乳犬歯		
	12	3章 乳歯 4. 乳臼歯	上下顎第一乳臼歯 第二乳臼歯		
	13	4章 歯の発生	細胞と組織の発生と構造 歯の発生 歯の萌出と脱落		
	14	5章 歯と歯周組織 1. 歯の組織	エナメル質 象牙質		
	15	5章 歯と歯周組織 1. 歯の組織	セメント質 歯髄		
	16	5章 歯と歯周組織 2. 歯周組織	歯根膜 歯槽骨		
	17	5章 歯と歯周組織 3. 歯や歯周組織の加齢現象	歯肉 歯と歯周組織の加齢現象		
18	6章 歯の異常	歯数・大きさの異常 重複 歯冠・歯根の異常 色調・萌出・歯列弓の異常			

19	7章 歯列・咬合	歯列 歯列弓 咬合彎曲 臨在歯との関係 上下歯列弓の位置関係 切歯の咬合関係 歯の植立
20	8章 頭蓋の骨 1. 脳頭蓋骨	脳頭蓋と鼻腔の周囲の骨
21	8章 頭蓋の骨 2. 顔面頭蓋骨	口腔周辺の顔面筋と咀嚼筋の付着部となる骨
22	8章 頭蓋の骨 3. 頭蓋の全景	頭蓋冠 側頭部 頭蓋底 眼窩 鼻腔と副鼻腔
23	9章 口腔周辺の筋 1. 浅頭筋	眼輪筋 口輪筋 頬筋 口角結節
24	9章 口腔周辺の筋 2. 深頭筋	咬筋 側頭筋 外側翼突筋 内側翼突筋
25	9章 口腔周辺の筋 3. 舌骨筋群	舌骨上筋・下筋群
26	10章 顎関節	構造 下顎の運動
27	11章 口腔 1. 口腔の隣接器官 2. 口腔 3. 口蓋	鼻腔 口腔前庭 固有口腔 口唇と頬 口蓋
28	11章 口腔 4. 唾液腺	大唾液腺 小唾液腺
29	11章 口腔 5. 舌	舌乳頭 味蕾 舌腺 舌筋
30	11章 口腔 6. 咽頭と喉頭	咽頭 喉頭

授業科目	口腔解剖学実習		担当教員	田中 聖一	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数 60時間
授業目的	歯形彫刻実習の目的、使用器具・材料を理解し、デッサンや彫刻方法について習得し、各歯種における形態の特徴を学ぶ。				
到達目標	個々の歯の形態の特徴をとらえながら、それぞれ決められた時間内で彫刻することができる。				
テキスト・参考図書等	最新歯科技工士教本 口腔・顎顔面解剖学（医歯薬出版） 歯の解剖 歯のデッサンと歯型彫刻（歯科技工学実習トレーニング） カービングガイド				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	実技試験による外形、溝、表面性状、寸法などによって評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	0				
履修上の留意事項	身だしなみを整え、正しい姿勢で臨むこと。 怪我をしない、またはさせないように注意すること。提出物は提出期限を守ること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	実習説明 上顎中切歯・デッサン・角柱	実習の目的 使用器具・材料 計測		
	2	上顎中切歯・彫刻	外形彫刻		
	3	上顎中切歯・彫刻	細部彫刻 完成		
	4	上顎犬歯・デッサン・角柱	外形彫刻		
	5	上顎犬歯・彫刻	細部彫刻 完成		
	6	上顎第一小白歯・デッサン・彫刻	外形彫刻		
	7	上顎第一小白歯・彫刻	細部彫刻 完成		
	8	上顎第一大臼歯・デッサン・彫刻	外形彫刻		
	9	上顎第一大臼歯・彫刻	細部彫刻 完成		
	10	下顎第一大臼歯・デッサン・彫刻	外形彫刻		
	11	下顎第一大臼歯・彫刻	細部彫刻 完成		
	12	下顎第一小白歯・彫刻	90分で彫刻		
	13	下顎第二小白歯・彫刻	"		
	14	下顎第二大臼歯	"		
	15	上顎第二大臼歯	"		
	16	上顎側切歯	"		
	17	上顎第二小白歯	デッサン 20分 彫刻 60分 修正 10分		
	18	下顎犬歯	"		
	19	上顎中切歯	"		
	20	上顎犬歯	"		
21	上顎第一小白歯	"			

	22	上顎第一大臼歯	〃
	23	下顎第一小臼歯	〃
	24	下顎第二小臼歯	〃
	25	下顎第一大臼歯	〃
	26	上 1 下 6	45 分で 1 本ずつ彫刻
	27	上 3 上 5	〃
	28	上 4 下 4	〃
	29	上 6 下 6	〃
	30	上 1 下 5	〃

授業科目	歯科技工学概論		担当教員	原口 直子	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	歯科医療と歯科技工の概念および倫理を学ぶ。				
到達目標	医療の目的や、チーム医療、業務内容、必要な倫理、業務実施に必要な運営・管理、作業環境、健康管理について説明することができる。				
テキスト・参考図書等	最新歯科技工士教本 歯科技工管理学（医歯薬出版）				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	試験100%により評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	0				
履修上の留意事項	授業中の入退室禁止。 携帯は机に出さないこと。 試験には関連資料からも出題する。（授業で説明したものに限り）				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	1章 歯科医療と歯科技工	医療と歯科医療 歯科技工学		
	2	2章 歯科技工士の役割	歯科技工士教育 国家試験 諸外国制度		
	3	2章 歯科技工士の役割	倫理 現状		
	4	3章 顔および口腔組織の形態と機能	顔の形態と機能		
	5	4章 歯科疾患と周囲組織の変化	歯の異常 硬組織疾患		
	6	4章 歯科疾患と周囲組織の変化	歯周組織疾患		
	7	4章 歯科疾患と周囲組織の変化	歯科疾患の現状		
	8	5章 歯科臨床と歯科技工	硬組織疾患・歯の欠損・歯周病と歯科技工		
	9	5章 歯科臨床と歯科技工	歯列不正・口腔外科疾患・顎関節症・スポーツ歯科と歯科技工		
	10	6章 歯科技工の管理と運営	歯科技工の作業環境		
	11	6章 歯科技工の管理と運営	歯科技工業務の運営		
	12	6章 歯科技工の管理と運営	歯科技工における衛生管理		
	13	7章 口腔と全身の健康管理	健康政策 在宅医療 災害時歯科医療		
	14	7章 口腔と全身の健康管理	歯ブラシによるブラッシング		
15	7章 口腔と全身の健康管理	デンタルフロスによる清掃 歯間ブラシによる清掃			

授業科目	歯科技工造形学	担当教員	倉光 綾香		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8回	時間数	16時間
授業目的	歯科技工に必要な美的感覚（色彩・形態）を養う。				
到達目標	デッサンの方法、造形表現や色彩および立体造形の基本を説明し、歯のデッサンおよび自画像スケッチなどを製作することができる。				
テキスト・参考図書等	最新歯科技工士教本 歯科技工造形学（医歯薬出版）				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	小テスト40%、提出物60%とする。		
	レポート	0			
	小テスト	40			
	提出物	60			
その他	0				
履修上の留意事項	提出物は提出期限を守ること				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	3章 歯の形態の表現	デッサンの方法		
	2	3章 歯の形態の表現	デッサンの方法		
	3	1章 美とは 2章 歯の観察に至るまで	見ることのメカニズム 錐体、杆体		
	4	6章 歯科技工と色彩	色彩の基本 演色性 色の三属性		
	5	6章 歯科技工と色彩	マンセルシステム 同時対比		
	6	5章 顔の観察	自画像スケッチ（骨格形態からのスケッチ）		
	7	5章 顔の観察	自画像スケッチ		
8	5章 顔の観察	自画像スケッチ			

授業科目	歯科理工学		担当教員	近藤 清一郎	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	35回	時間数 70時間
授業目的	歯科技工に使用する材料の歯科理工学的性質・安全性・品質検査及び歯科技工に必要な機器の知識と加工技術を習得する。				
到達目標	材料の機械的性質と物理的性質、生体材料に要求される化学的・生物学的性質を理解し、それぞれの材料を正しく使用できる。				
テキスト・参考図書等	最新歯科技工士教本 歯科理工学（医歯薬出版）				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	試験100%により評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	0				
履修上の留意事項	歯科理工学はまだ歯科技工の実際を体験していない学生にとっては関連が実感できず理解しにくい一面があるが、知り、学び、理解することにより納得することができるという考えのもとで学ぶこと。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	1章 歯科技工と歯科理工学	歯科理工学の意義と目的 材料の果たす役割 歯科技工の安全性と環境		
	2	2章 歯科材料の性質 1. 物質の構造	原子間結合 材料の種類と性質		
	3	2章 歯科材料の性質 2. 機械的性質	応力とひずみ 弾性変形と塑性変形 応力-ひずみ曲線 展性と延性		
	4	2章 歯科材料の性質 2. 機械的性質	曲げ強さ 疲労限 衝撃強さ クリープ 粘弾性 硬さ		
	5	2章 歯科材料の性質 3. 物理的性質	密度と比重 熱膨張係数 熱伝導率		
	6	2章 歯科材料の性質 3. 物理的性質	熱可塑性 比熱 蒸発熱と融解熱 光の屈折と反射		
	7	2章 歯科材料の性質 4. 化学的性質	腐食と変色 溶解性 吸水性 接着性		
	8	2章 歯科材料の性質 5. 生物学的性質	生体安全性の評価 生体反応		
	9	3章 印象と模型製作 1. 印象材	印象材の分類 種類		
	10	3章 印象と模型製作 1. 印象材	一般的性質 印象材と模型材との関係		
	11	3章 印象と模型製作 2. 模型材	石膏の種類 一般的性質		
	12	4章 原型製作	歯科用ワックスの種類と用途 組成 性質 ワックス以外の原型材料		
	13	5章 レジン成形 1. 義歯床用レジン	義歯床レジン 加熱重合レジン 常温重合レジン		
	14	5章 レジン成形 1. 義歯床用レジン 2. 義歯床関連材料	その他の義歯床レジン 填入・成形法 人工歯 硬軟質義歯裏装材		
	15	5章 レジン成形 3. 歯冠用硬質レジン 4. その他のレジン	歯冠用硬質レジンの組成・性質・金属との結合 CAD/CAM用コンポジットレジンの種類と組成 その他のレジン		
16	6章 セラミック形成 1. 歯冠用セラミックス 2. 長石系陶材	種類 性質 組成 築盛 焼成			

17	6章 セラミック形成 3. 金属焼付用陶材 4. 加熱加圧型セラミックス	陶材と貴金属・非貴金属の結合 焼付用陶材と焼付用合金成分 成形法
18	6章 セラミック形成 5. ジルコニア 6. その他のセラミックス材料	種類 成形法 焼成・ロストワックス・機械加工で製作するセラミックス
19	7章 金属成形 1. 歯科用合金	所要性質 種類と用途 組成と添加元素の役割
20	7章 金属成形 2. 金合金	所要性質 種類と用途 組成と添加元素の役割
21	7章 金属成形 3. 銀合金 4. コバルトクロム合金	種類と用途 組成と添加元素の役割
22	7章 金属成形 5. チタンおよびチタン合金 6. ステンレス鋼	組成
23	7章 金属成形 7. 鋳造	鋳造理論 埋没材 埋没操作 鋳型の加熱
24	7章 金属成形 7. 鋳造	鋳造操作 鋳造欠陥 適合不良
25	7章 金属成形 8. 金属の加工	金属の塑性加工と硬化 歯科用 CAD/CAM
26	7章 金属成形 9. 金属の接合	種類 鋲付け 鋲付け法 溶接 鋳接
27	7章 金属成形 9. 金属の接合	鋲付け法 溶接 鋳接
28	7章 金属成形 10. 合金の熱処理	軟化熱処理 硬化熱処理
29	8章 その他の歯科材料 1. 合着材・接着材	従来型セメント 接着性レジンセメント
30	8章 その他の歯科材料 2. 成形修復物 3. インプラント材料	アマルガム コンポジットレジン グラスアイオノマーセメント インプラント材料
31	9章 補綴装置と修復物の仕上げ 1. 意義と目的 2. 成形体の仕上げ 3. 機械研磨 4. 化学研磨	審美的・生物学的・口腔衛生学的・化学的意義 切削・研削・研磨 電解研磨
32	9章 補綴装置と修復物の仕上げ 5. 圧延による表面仕上げ 6. 材料添加による表面仕上げ	レジン・陶材の表面仕上げ
33	9章 補綴装置と修復物の仕上げ 7. 研磨効率 8. 器械・器具 9. 補綴装置と修復物の研磨方法	マイクロモーター 電気エンジン レーズ他
34	10章 新しい加工技術	CAD/CAM
35	11章 補綴装置と修復物の安定性	レジン・セラミックスの機械的・物理的・化学的性質の安定性 イオン化傾向

授業科目	歯科理工学実習		担当教員	倉光 綾香	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	55回	時間数 110時間
授業目的	各種歯科材料の特徴を学ぶ。				
到達目標	物性を理解し、それぞれについて適正な取り扱いができる。				
テキスト・参考図書等	最新歯科技工士教本 歯科理工学（医歯薬出版） 歯科理工実習と研究の基礎（歯科技工実習トレーニング）				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	実験が終了した際に提出するレポートと各材料の小テストを行い評価する。		
	レポート	60			
	小テスト	40			
	提出物	0			
その他	0				
履修上の留意事項	器械や器具は丁寧に扱うこと。レポートの提出期限は守ること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	器械・器具の取り扱い方法	実習機 椅子の使用法 真空埋没器の使用法 彫刻刀・切り出しの使用法		
	2	石膏の操作	普通石膏の練和方法（手練り・真空） 石膏棒作製（普通石膏）		
	3	器械・器具の取り扱い方法	マイクロモーター バイブレーター トリマーの使用法		
	4	石膏の操作	糸のこの使用法 普通石膏の彫刻 硬質石膏棒の作製		
	5	石膏の操作	硬質石膏棒の削り（マイクロモーター&切り出し使用）		
	6	ワックスの操作	パラフィンワックスの盛り上げと彫刻		
	7	ワックスの操作	インレーワックスの盛り上げと彫刻		
	8	歯形彫刻用の器具の使用法	歯の計測方法 ノギスの読み方 展開図		
	9	レジンの操作	トレーレジンでサイコロ・球の外形作製		
	10	レジンの操作	形態修正		
	11	レジンの操作	即時重合レジン盛り上げ 研磨		
	12	石膏の操作	彫刻		
	13	データ処理	レポートのまとめ方		
	14	石膏の顕微鏡観察	顕微鏡の使用法 針状結晶		
	15	石膏の温度上昇と硬化時間の測定	発熱現象 ギルモア針での測定 混水比・練和時間・促進剤での違い		
	16	石膏の硬化膨張	普通石膏の硬化膨張		
	17	石膏の硬化膨張	硬質石膏の硬化膨張 結果と考察		
	18	埋没材の硬化膨張	クリストパライト・石英埋没材・リン酸塩系埋没材の硬化膨張 結果と考察		
	19	線屈曲と自在鑑付け	ワイヤー屈曲		
	20	線屈曲と自在鑑付け	"		
	21	線屈曲と自在鑑付け	鑑付け 研磨		
22	ワックスの変形	試験片作製（パラフィン・インレーワックス）			

23	ワックスの変形	試験片作製 (パラフィン・インレーワックス)
24	ワックスの変形	内部応力と応力緩和
25	ワックスの変形	結果と考察
26	鋳造操作	試験片作製 埋没
27	鋳造操作	鋳造
28	鋳造操作	研磨
29	模型床の寸法精度	圧接
30	模型床の寸法精度	埋没
31	模型床の寸法精度	重合
32	模型床の寸法精度	測定
33	模型床の寸法精度	研磨
34	模型床の寸法精度	研磨
35	模型床の寸法精度	研磨
36	レジン重合時の気泡の発生	ワックスの圧接
37	レジン重合時の気泡の発生	埋没
38	レジン重合時の気泡の発生	流ろう
39	レジン重合時の気泡の発生	填入・重合
40	レジン重合時の気泡の発生	観察
41	レジン重合時の気泡の発生	研磨
42	レジン重合時の気泡の発生	研磨
43	精密鋳造	クラウン ワックス1個目作成・埋没
44	精密鋳造	クラウン ワックス2個目作成・埋没
45	精密鋳造	鋳造
46	精密鋳造	測定
47	精密鋳造	研磨
48	精密鋳造	研磨
49	バイトロック	屈曲 (1.0mm クラスプ線) 2本
50	埋没 模型作製の方法	パラフィンワックス固定 全部床模型石膏注入
51	流ろう 鑑付け	流ろう ハンディトーチ鑑付け
52	研磨	ワックス除去 シリコン研磨まで
53	模型作製の方法	拡大インレー 歯冠修復石膏注入
54	"	トリマーのかけ方 二次石膏 修正
55	自在ろう付け	屈曲 (0.9mm 矯正線)

授業科目	歯冠修復技工学	担当教員	會田 英紀		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	30回	時間数	60時間
授業目的	有歯顎における歯の実質欠損と歯列の部分的欠如、ならびに咬合の不調和などに起因する形態異常および審美的障害など、歯の形態や機能の代わりにする修復物について学ぶ。				
到達目標	歯冠修復物および加工義歯に関する知識を深め、各種材料を用いながら審美的・機能のおよび適合の良い歯冠修復物の製作方法を説明できる。				
テキスト・参考図書等	最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学（医歯薬出版）				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	試験 100%により評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項	歯冠修復技工学は歯科補綴学の基礎に立っており、歯科技工の仕事に直結する重要な科目であり集中力をもって授業に臨むこと。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	1章 歯冠修復技工学の概要 1. 歯冠修復技工学の意義と目的 2. 臨床的価値	顎口腔系の機能・審美的回復と改善 口腔衛生の管理		
	2	2章 クラウンの概要と種類 1. 概要 2. 歯冠修復物と部分被覆冠 3. 全部被覆冠 4. 継続歯	インレー アンレー 3/4 4/5 7/8 クラウン プロキシマルーフクラウン ピンレッジ ラミネートベニア 全部金属冠 前装冠 ジャケットクラウン		
	3	3章 ブリッジの概要と種類 1. 概要 2. 特徴 3. 構成要素 4. 種類	ブリッジの利点・欠点 支台装置 ボンティック 連結部 固定性・半固定・可撤性ブリッジ		
	4	4章 クラウンとブリッジの具備要件 1. 生物学的要件	歯および歯列との関係 歯周組織との関係 清掃性との関係 機能・形態の回復		
	5	4章 クラウンとブリッジの具備要件 2. 構造力学的要件 3. 化学的要件	材料学的要件 力学的安定性 維持力 化学的安定性		
	6	4章 クラウンとブリッジの具備要件 4. 審美的要件	材料学的要件 形態 排列 色調 心理的要件		
	7	5章 クラウンとブリッジの製作 1. 臨床ステップの概要 2. 印象採得	印象材の種類・取り扱い		
	8	5章 クラウンとブリッジの製作 3. 研究用模型 4. 印象用トレー	印象用トレーの目的・種類 個人トレーの製作方法		
	9	5章 クラウンとブリッジの製作 5. 支台築造 6. プロビジョナルレストレーション	目的と意義 種類と使用材料 製作法 要件		

10	5章 クラウンとブリッジの製作 7. 色調選択 8. 作業用模型	色調選択の要件と方法・手順 色調選択時の注意点 意義と目的 作業用模型の構成・要件・特徴・種類・製作
11	5章 クラウンとブリッジの製作 8. 作業用模型 9. 咬合器への装着	歯型の辺縁形態 平均値咬合器への模型の装着 フェイスボウに上顎模型の装着 模型を装着する場合の注意点
12	5章 クラウンとブリッジの製作 10. クラウンに与える咬合 11. ワックスパターン形成	前装部、臼歯部のクラウン 歯型への分離剤の塗布 ワックスパターン形成の方法と形成時の注意点
13	5章 クラウンとブリッジの製作 12. 埋没 13. 鋳造作業	埋没の前準備 埋没方法 鋳造方法 金属の融解方法 鋳造時の金属の取り扱い 鋳造体の清掃
14	5章 クラウンとブリッジの製作 14. 連結法 15. 調整	ワンピースキャスト法 鑢付け法 溶接法 鋳接法 外面、内面、辺縁部、隣接面、咬合面の調整
15	5章 クラウンとブリッジの製作 16. 研磨 17. 試適・仮着・合着	研磨の意義と目的 研磨器具と材料 研磨材と研磨能率の関係 研磨の方法 試適 仮着 合着
16	5章 クラウンとブリッジの製作 18. レジン前装 19. 陶材の築盛・焼成	前装部の形態 前装部の維持形態、接着技法 前装材の種類 陶材の種類 陶材の築盛方法 コンデンスの意義 陶材の焼成
17	5章 クラウンとブリッジの製作 20. クラウンの不具合の原因	クラウンが適合不良になる原因 クラウンの咬合が高くなる原因
18	6章 歯冠修復物と部分被覆冠 1. インレー、アンレー	意義・特徴・適応用途 メタル・コンポジットレジン・ポーセレンのインレーと アンレー窩洞形態と構成要素
19	6章 歯冠修復物と部分被覆冠 2. 3/4クラウン、4/5クラウン、7/8クラウン	意義、特徴、適応用途 支台歯形態
20	6章 歯冠修復物と部分被覆冠 3. プロキシマルハーフクラウン 4. ピンレッジ 5. ラミネートベニア	意義、特徴、適応用途 支台歯形態 製作上の注意点 使用材料
21	7章 全部被覆冠 1. 全部金属冠	意義、特徴、適応用途 支台歯形態
22	7章 全部被覆冠 2. 前装冠	意義、特徴、適応用途 支台歯形態
23	7章 全部被覆冠 2. 前装冠	レジン前装冠 陶材焼付金属冠
24	7章 全部被覆冠 3. ジャケットクラウン	意義、特徴、適応用途 支台歯形態 レジンジャケットクラウン
25	7章 全部被覆冠 3. ジャケットクラウン	ポーセレンジャケットクラウン オールセラミッククラウン
26	8章 ブリッジ 1. 支台装置 2. ボンティック	支台装置の種類・適応用途 ボンティックの要件、構造、種類、形態、適応用途
27	8章 ブリッジ 3. 連結部 4. ブリッジの製法	連結法の種類・適応用途 連結部の要件・歯列に与える咬合 ワンピースキャスト法による臼歯部全部金 前歯部陶材焼付金属ブリッジの製法
28	8章 ブリッジ 5. 接着ブリッジの製法	意義、特徴、適応用途 支台歯形態 接着ブリッジの製作と接着面処理法

	29	<p>9章 インプラント</p> <p>1. 概要</p> <p>2. 生体</p> <p>3. 治療の流れ</p> <p>4. 種類</p> <p>5. 咬合</p> <p>6. 上部構造製作</p>	<p>インプラント体 アバットメント 上部構造 形状・入部 位・手術回数・固定方法 による分類 上部構造製作技工の注意点</p>
	30	<p>10章 CAD/CAM システム</p>	<p>CAD/CAM システムの構成・利点・欠点 使用される材料 加工装置</p>

授業科目	歯冠修復技工学実習		担当教員	倉光 綾香	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	105回	時間数 210時間
授業目的	各種歯冠修復物の特徴や適応症および禁忌症などを理解し、それらの製作方法について学ぶ。				
到達目標	歯冠修復物および架工義歯に関する知識を深め、各種材料を用いながら審美的・機能的および適合の良い歯冠修復物の製作ができる。				
テキスト・参考図書等	最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学 歯科技工実習（医歯薬出版） 歯冠修復技工（歯科技工実習トレーニング）				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	それぞれの提出物で評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	100			
その他	0				
履修上の留意事項	身だしなみを整え、正しい姿勢で臨むこと。器械や器具は丁寧に扱うこと。怪我をしない、またはさせないように注意すること。提出物は提出期限を守ること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	拡大歯型によるインレー製作 模型作製	石膏注入 インレーとアンレーの違い ブラックの分類 窩縁部および隅角の名称		
	2	ワックスパターン形成	分離剤塗布 軟質、硬質インレーワックス盛り上げ、形成		
	3	埋没	スプルー線の種類 植立位置 埋没方法		
	4	鑄造	乾燥 加熱 鑄造		
	5	研磨	鑄造体の割り出し、清掃 調整（試適） スプルー切断 粗研磨		
	6	研磨	中研磨 仕上げ研磨		
	7	完成	洗浄 完成		
	8	全部金属冠製作 模型製作	一次石膏注入 ダウエルピン植立 回転防止 維持溝		
	9	模型製作	二次石膏注入 模型調整		
	10	模型製作	分割 トリミング		
	11	咬合器装着	咬合器装着		
	12	下顎右側第1大白歯のワックスパターン形成	分離剤塗布 頬側、舌側、隣接面、鼓形空隙、咬合面盛り上げ		
	13	下顎右側第1大白歯のワックスパターン形成	外形形成		
	14	下顎右側第1大白歯のワックスパターン形成	咬合面形成		
	15	下顎右側第1大白歯のワックスパターン形成	辺縁部調整		
	16	埋没	スプルー線の種類 植立位置 埋没方法		
	17	鑄造	乾燥 加熱 鑄造		
	18	研磨	鑄造体の割り出し、清掃 調整（試適） スプルー切断 粗研磨		
	19	研磨	中研磨 仕上げ研磨		
	20	完成	洗浄 完成		
21	上顎左側第1小白歯のワックスパターン形成	分離剤塗布 頬側、舌側、隣接面、鼓形空隙、咬合面盛り上げ			

22	上顎左側第1小臼歯のワックスパターン形成	外形形成
23	上顎左側第1小臼歯のワックスパターン形成	咬合面形成
24	上顎左側第1小臼歯のワックスパターン形成	辺縁部調整
25	埋没	スプルー線の種類 植立位置 埋没方法
26	鋳造	乾燥 加熱 鋳造
27	研磨	鋳造体の割り出し、清掃 調整(試適) スプルー切断 粗研磨
28	完成	中研磨 仕上げ研磨 洗浄
29	インレー製作 下顎左側第1大臼歯	分離剤塗布 軟質、硬質インレーワックス盛り上げ
30	ワックスパターン形成	隣接面形成
31	ワックスパターン形成	咬合面形成
32	ワックスパターン完成	調整
33	臼歯架橋義歯製作 下顎左側第1小臼歯・第2小臼歯・第1大臼歯	一次石膏注入 ダウエルピン植立 回転防止 維持溝
34	模型製作	二次石膏注入 模型調整 分割 トリミング
35	咬合器装着	トリミング 咬合器装着
36	下顎左側第1小臼歯のワックスパターン形成	分離剤塗布 ワックス盛り上げ 外形形成
37	下顎左側第1小臼歯のワックスパターン形成	咬合面形成
38	下顎左側第1大臼歯のワックスパターン形成	分離剤塗布 ワックス盛り上げ 外形形成
39	下顎左側第1大臼歯のワックスパターン形成	咬合面形成
40	下顎左側第2小臼歯のワックスパターン形成	分離剤塗布 基底面シートワックス圧接 ワックス軟化圧接、外形形成
41	下顎左側第2小臼歯のワックスパターン形成	咬合面形成
42	下顎左側第2小臼歯のワックスパターン形成	調整
43	基底面形成(リッジラップ型)	ポンティック基底面形成(リッジラップ型)
44	基底面形成(リッジラップ型)	ポンティック基底面形成(リッジラップ型)
45	連結	支台装置とポンティックの連結 スプルー線の植立(ランナーバー)
46	埋没	埋没
47	鋳造	乾燥 加熱 鋳造
48	研磨	鋳造体の割り出し、清掃 調整(試適) スプルー切断
49	研磨	咬合調整 粗研磨 中研磨
50	研磨	仕上げ研磨
51	完成	洗浄 完成
52	硬質レジン前装金属冠製作 上顎右側中切歯	一次石膏注入 ダウエルピン植立 回転防止 維持溝
53	模型製作	二次石膏注入 模型調整 分割 トリミング
54	咬合器装着	咬合器装着
55	上顎右側中切歯のワックスパターン形成	分離剤塗布 ワックス盛り上げ 外形形成
56	上顎右側中切歯のワックスパターン形成	外形形成 シリコンコア採得
57	窓開け	窓開け外形線印記 切縁、隣接面部窓開け

58	窓開け	唇側面窓開け
59	埋没	スブルー植立 維持(リテンションピース)付与 埋没
60	鋳造	乾燥 加熱 鋳造
61	メタル調整	鋳造体の割り出し、清掃 調整(試適) スブルー切断 辺縁部メタル調整
62	金属表面研磨	舌側面、隣接面研磨
63	レジン築盛	オパーク、サービカル築盛
64	レジン築盛 最終重合	デンティン築盛 エナメル築盛
65	形態修正	前装部形態修正(外形)
66	形態修正	前装部形態修正(細部)
67	研磨	前装部研磨
68	完成	洗浄 完成
69	支台築造&テンポラリーブリッジ製作 上顎右側中切歯・犬歯および下顎左側第1大臼歯・第2大臼歯	石膏注入
70	模型製作	模型製作
71	咬合器装着	咬合器装着
72	コア部(中切歯) ワックスパターン形成	中切歯ポストコア形成
73	コア部(中切歯) ワックスパターン形成	中切歯ポストコア形成
74	コア部(犬歯) ワックスパターン形成	犬歯ポストコア形成
75	コア部(犬歯) ワックスパターン形成 埋没	犬歯ポストコア形成 上顎部スブルー線の植立 埋没
76	鋳造	乾燥 加熱 鋳造
77	下顎コア部ワックスパターン形成・埋没	左側第1大臼歯・第2大臼歯ポストコア形成・埋没
78	上顎コア部研磨	上顎コア部研磨
79	鋳造	下顎コア部鋳造
80	中切歯・犬歯ワックスパターン形成	中切歯・犬歯ワックスパターン形成
81	側切歯ワックスパターン形成	基底面シートワックス圧接 ワックス軟化圧接、外形形成
82	側切歯ワックスパターン形成	側切歯ワックスパターン形成
83	シリコンコア採得 レジン填入	シリコンコア採得 スピルウェイ形成 即時重合レジン填入
84	形態修正	形態修正
85	研磨	研磨 洗浄
86	下顎コア研磨 完成	下顎コア研磨 洗浄 完成
87	支台歯の製作 築造用の模型を利用	右上第一大臼歯 頬側、舌側面支台歯形成
88	右上第一大臼歯 支台歯形成	右上第一大臼歯 咬合面支台歯形成
89	右上第一大臼歯 支台歯形成	右上第一大臼歯 咬合面支台歯形成
90	ワックスパターン形成	分離剤塗布 頬側、舌側、隣接面、鼓形空隙、咬合面盛り上げ
91	ワックスパターン形成	外形形成
92	ワックスパターン形成	咬合面形成
93	シリコンコア採得	シリコンコア採得

94	シリコンコア採得	シリコンコア採得 スピルウェイ形成
95	レジン填入	即時重合レジン填入
96	研磨	咬合チェック
97	研磨	研磨
98	完成	洗浄 完成
99	口蓋床の製作 印象採得	口蓋床の製作 印象採得 石膏注入
100	模型作製	石膏注入 模型調整
101	レジン盛り上げ	レジン盛り上げ（ふりかけ法・筆積み法）
102	レジン盛り上げ	レジン盛り上げ（ふりかけ法・筆積み法）
103	研磨	形態修正 厚み調整
104	研磨	研磨
105	完成	洗浄 完成

授業科目	小児歯科技工学	担当教員	三浦 真理		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8回	時間数	16時間
授業目的	小児歯科治療の特色を理解し、技工操作においても小児の特徴を十分理解する。				
到達目標	小児歯科の基礎的概念を理解し、乳歯歯冠修復物と咬合誘導装置製作に関する知識を身につけ、製作できる。				
テキスト・参考図書等	最新歯科技工士教本 小児歯科技工学（医歯薬出版）				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	試験 100%により評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	0				
履修上の留意事項	総合的な歯科学・歯科技工学を学び、その中での小児歯科・小児歯科技工学と捉え、自主的に授業に参加すること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	1章 小児歯科技工概説 1 乳歯列期の場合 2 混合歯列期の場合	齲蝕 欠損 不正咬合		
	2	2章 歯・顎・顔面の成長発育 1. 成長発育段階 2. 成長発育と年齢 3. 顎・顔面の成長発育 4. 歯と歯列の発育	全身の成長発育 小児の年齢評価 骨の成長洋式 顎の発育 歯の萌出 無歯期 乳歯萌出期 乳歯列期 混合歯列期 永久歯列期		
	3	3章 小児の歯冠修復 1. 小児の歯冠修復の特徴 2. 小児の歯冠修復の種類	成形修復 インレー 被覆冠		
	4	4章 咬合誘導装置の種類 1. 咬合誘導の概念 2. 咬合誘導装置の種類	保険装置 スペースリゲーター 口腔習癖除去装置		
	5	5章 保険装置 1. 必要条件と分類 2. それぞれの保険装置について	保険装置の必要条件・分類 目的 装置の構成 使用材料と器具 製作法と製作上の注意点		
	6	6章 スペースリゲーター 1. 目的 2. 拡大ネジを応用したスペースリゲーター 3. アダムスのスプリングを応用したスペースリゲーター	装置の構成 使用材料と器具 製作法と製作上の注意点		
	7	7章 口腔習癖除去装置 1. 口腔習癖の種類 2. 装置の種類	吸指癖除去装置 舌癖除去装置		
	8	8章 咬合誘導装置に用いる維持装置 1. アダムスのクラスプ 2. シュワルツのクラスプ 3. 唇側線 4. 単純鉤 5. ボールクラスプ	特徴 製作法と製作上の注意点		

授業科目	総合歯科技工実習		担当教員	倉光 綾香	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数 60時間
授業目的	自主製作活動を通して、自主的に取り組み、課題を自らの力で解決しようとする態度を養う。				
到達目標	オリジナル作品を製作することにより歯科用材料に慣れる。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	オリジナル作品による提出物で評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	100			
その他	0				
履修上の留意事項	作品製作においてその目的、使用材料、作業工程、日程、展示方法など自ら考え計画し作製に臨むこと。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	学校祭出品作品	オリジナル作品作製の意義と目的		
	2	学校祭出品作品	テーマ 使用材用 計画表作成		
	3	学校祭出品作品	オリジナル作品作製		
	4	学校祭出品作品	オリジナル作品作製		
	5	学校祭出品作品	オリジナル作品作製		
	6	学校祭出品作品	オリジナル作品作製		
	7	学校祭出品作品	オリジナル作品作製		
	8	学校祭出品作品	オリジナル作品作製		
	9	学校祭出品作品	オリジナル作品作製		
	10	学校祭出品作品	オリジナル作品作製		
	11	学校祭出品作品	オリジナル作品作製		
	12	学校祭出品作品	オリジナル作品作製		
	13	学校祭出品作品	オリジナル作品作製		
	14	学校祭出品作品	オリジナル作品作製		
	15	学校祭出品作品	オリジナル作品作製 中間計画再考		
	16	学校祭出品作品	オリジナル作品作製		
	17	学校祭出品作品	オリジナル作品作製		
	18	学校祭出品作品	オリジナル作品作製		
	19	学校祭出品作品	オリジナル作品作製		
	20	学校祭出品作品	オリジナル作品作製		
	21	学校祭出品作品	オリジナル作品作製		
	22	学校祭出品作品	オリジナル作品作製		
23	学校祭出品作品	オリジナル作品作製			

	24	学校祭出品作品	オリジナル作品作製
	25	学校祭出品作品	オリジナル作品作製
	26	学校祭出品作品	オリジナル作品作製
	27	学校祭出品作品	オリジナル作品作製
	28	学校祭出品作品	提出準備
	29	学校祭出品作品	提出準備
	30	学校祭出品作品	完成

授業科目	有床義歯技工学		担当教員	山本 悟	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数 60時間
授業目的	歯を失った場合、義歯を入れて、その機能・形態および審美性を回復し、全身の健康増進に間接的に寄与している。失われた歯の状態によって全部床義歯や部分床義歯に分類されるが、それぞれについての特徴、意義や目的などの理論と製作方法について学ぶ。				
到達目標	歯の欠損で生じた口腔の形態や機能の変化を解剖学的、生物学的、力学的面からの知識を説明でき、それぞれの補綴物の特徴を理解しながら製作できる。				
テキスト・参考図書等	最新歯科技工士教本 有床義歯技工学（医歯薬出版） 有床義歯技工（歯科技工学実習トレーニング）				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	試験 100%により評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	0				
履修上の留意事項	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	1章 有床義歯技工学概説 1. 有床義歯とは 2. 意義と目的	特徴		
	2	1章 有床義歯技工学概説 3. 種類 4. 固定性補綴装置との相違	全部床義歯 部分床義歯 ブリッジと部分床義歯との相違		
	3	2章 有床義歯技工に関連のある生体についての基礎知識 1. 形態的基礎知識	顎関節 筋 抜歯創の治癒経過 歯列弓と顎堤弓 彎曲 ボンウィル三角 基準平面		
	4	2章 有床義歯技工に関連のある生体についての基礎知識 2. 機能的基礎知識 3. 審美的基礎知識	咬合力 咀嚼能率 発音 顔貌と歯の形態 色調 SPA要素		
	5	2章 有床義歯技工に関連のある生体についての基礎知識 4. 有床義歯技工に伴う生物学的事項	支台歯に加わる力とその影響 クラスプの装着による歯肉への影響 床縁による残存歯肉の変化 義歯床による顎堤の変化		
	6	3章 全部床義歯の特性 1. 構成要素 2. 種類 3. 維持、安定および支持	人工歯 義歯床 使用目的による分類 義歯の維持・安定・支持		
	7	4章 全部床義歯の製作順序 1. 歯科診療所と歯科技工所における作業の関連	個人トレー咬合床、蠟義歯の製作 義歯の完成		
	8	5章 全部床義歯の印象採得に伴う技工操作 1. 無歯顎 2. 印象とトレー	上下顎の解剖学的ランドマーク 無歯顎の対向関係 無歯顎の印象の特徴 印象法の種類 外形印象と研究用模型の製作 個人トレー		
	9	5章 全部床義歯の印象採得に伴う技工操作 3. 精密印象と作業用模型	ボクシング 石膏の注入 作業用模型の仕上げ		
10	6章 全部床義歯の咬合採得に伴う技工操作 1. 模型の処理 2. 咬合床製作 3. 全部床に用いられる咬合器	外形線・基準線記入 リリーフ ポストダム 基礎床 咬合堤 咬合採得 平均値・半調節性咬合器			

11	6章 全部床義歯の咬合採得に伴う 技工操作 4. 模型の咬合器装着 5. 咬合 器の調節 6. ゴシックアーチ描記装置	咬合平面版 フェイスボウ スプリットキャスト法 作業用模型装着 咬合器の調節 ゴシックアーチ描 記装置の取り付け
12	7章 全部床義歯の人工歯配列と歯 肉形成 1. 人工歯 2. 人工歯排列	人工歯の種類 人工歯の選択
13	7章 全部床義歯の人工歯配列と歯 肉形成 3. 歯肉形成 4. 蠟義歯の試適	唇側・頬側・舌側・口蓋部の歯肉形成 床縁の形成
14	8章 全部床義歯の埋没と重合 1. 埋没の前準備 2. 埋没 3. 流蠟 4. 義歯床レジンとの重合	スプリットキャスト テンチの歯型 加熱・常温重 合レジンの埋没 加熱・常温・ポリスルフォン樹脂の成形
15	9章 全部床義歯の咬合器への再装 着、削合、研磨 1. 咬合器再装着の方法と特徴 2. 人工歯の削合 3. 研磨	スプリットキャスト法 テンチの歯型法 フェイスボ ウトランスファー法 咬合小面 選択削合と自動削合 人工歯咬合面の形態修正と研 磨 研磨の目的・要点 洗浄と保管
16	10章 部分床義歯の特性 11章 部分床義歯の製作 順序 1. 構成要素 2. 残存歯・欠損状態、咬合圧支 持様式、支持域、目的別による 分類	支台装置 連結子 義歯床 人工歯 ケネディーの 分類 歯根膜・粘膜負担 歯科診療所と歯科技工所における作業の関連
17	12章 部分床義歯の構成要素 1. 支台装置 2. 連結子	クラスプ レスト アタッチメント テレスコープ 補助支台装置 連結子の必要条件、目的、利点・欠点、分類
18	12章 部分床義歯の構成要素 3. 義歯床 4. 人工歯	義歯床の役割 材料 外形線決定 床縁の形態と位 置 義歯床の厚さ 緩衝腔
19	13章 部分床義歯の印象と模型 1. 印象採得に伴う技工作業 2. 模型製作 3. オルタードキャスト法	部分床義歯の印象 研究用模型 個人トレー ボク シング 石膏注入および作業用模型の仕上げ オルタードキ ャスト法
20	14章 部分床義歯の咬合採得に伴 う技工操作 1. 咬合採得に伴う技工作業 2. 咬合器装着	咬合床の製作 平面版を使用する方法 フェイスボ ウを使用する方法
21	15章 クラスプ 1. 支台歯の前処理 2. サベイヤの構造と使用方法	ガイドプレーン レストシート サベイヤの使用 目的 構造および種類 サベイング
22	15章 クラスプ 3. 鑄造鉤 4. 線鉤	外形線 間接・直接法 屈曲の原則 レストの製作 法 1線法・2線法
23	16章 バーの製作 17章 部分床義歯の人工歯排列、 削合、歯肉形成	鑄造バー、屈曲バーの製作 前歯部排列（審美的、 発音の回復） 臼歯部排列（対合歯、支台装置との関係） 選択削 合 歯肉形成の目的、方法
24	18章 部分床義歯の埋没と重合 1. 加熱重合法 2. 流し込み重合法	前準備 埋没 流蠟 填入 重合 取り出し 寒天埋没法 石膏コア法 シリコンコア法
25	19章 部分床義歯の人工歯排列、 削合、歯肉形成 1. 咬合調整 2. 研磨	咬合調整の方法 研磨の目的と手順
26	20章 修理	破損・破壊の原因 メカニズム 義歯床の修理 人工歯の修理 支台装置の修理 人工歯の追加
27	21章 リベースおよびリライン	目的と方法
28	22章 オーバーデンチャー	目的と種類 意義と問題点

29	23章 金属床義歯	利点・欠点 種類 全部床・部分床のフレームワーク フレームワークに必要な技工操作
30	24章 その他の有床義歯	ノンメタルデンチャー ジルコニアを用いた義歯

授業科目	有床義歯技工学実習		担当教員	田中 聖一	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	105回	時間数 210時間
授業目的	有床義歯における各々の装置の特徴や製作方法を学ぶ。				
到達目標	各補綴物の特徴や適応症、使用材料などを説明でき、適正に製作することができる。				
テキスト・参考図書等	最新歯科技工士教本 有床義歯技工学 (医歯薬出版) 最新歯科技工士教本 歯科技工実習 (医歯薬出版) 有床義歯技工 (歯科技工学実習トレーニング)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	それぞれの提出物で評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	100			
その他	0				
履修上の留意事項	身だしなみを整え、正しい姿勢で臨むこと。器械や器具は丁寧に扱うこと。怪我をしない、またはさせないように注意すること。提出物は提出期限を守ること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	全部床義歯 模型作製	実習の目的 目標 全部床の構成要素 石膏注入		
	2	外形線記入・緩衝	解剖学的ランドマーク 基準線 リリーフ ポストダム		
	3	基礎床作製	スプリットキャスト		
	4	基礎床作製	トレー用常温重合レジンの操作 (上顎圧接)		
	5	基礎床作製	トレー用常温重合レジンの操作 (上顎厚さ調整)		
	6	基礎床作製	トレー用常温重合レジンの操作 (上顎辺縁修正)		
	7	基礎床作製	トレー用常温重合レジンの操作 (下顎圧接)		
	8	基礎床作製	トレー用常温重合レジンの操作 (下顎厚さ調整)		
	9	基礎床作製	トレー用常温重合レジンの操作 (下顎辺縁修正)		
	10	上顎咬合堤作製	パラフィンワックスロール状 軟化 馬蹄形圧接 焼きつけ		
	11	上顎咬合堤作製	咬合平面部作製 高さ調整		
	12	上顎咬合堤作製	咬合平面部作製 高さ調整		
	13	上顎咬合堤作製	咬合平面部作製 高さ調整		
	14	上顎咬合堤作製	前歯部 犬歯部 大臼歯部 幅調整 トーチで滑沢に仕上げ		
	15	下顎咬合堤作製	咬合平面部作製 高さ調整		
	16	下顎咬合堤作製	咬合平面部作製 高さ調整		
	17	下顎咬合堤作製	咬合平面部作製 高さ調整		
	18	下顎咬合堤作製	前歯部 犬歯部 大臼歯部 幅調整		
	19	下顎咬合堤作製	前歯部 犬歯部 大臼歯部 幅調整 トーチで滑沢に仕上げ 標準線記入		
	20	咬合器装着	咬合器確認 咬合平面板装着		
	21	咬合器装着	上顎模型装着		
	22	咬合器装着	下顎模型装着 ペーパーコーンで石膏面修正		
23	人工歯排列 (上顎法) 上顎前歯排列	両側中切歯排列			

24	上顎前歯排列	両側側切歯排列
25	上顎前歯排列	両側犬歯排列
26	下顎前歯排列	両側中切歯・側切歯排列
27	下顎前歯排列	両側犬歯排列
28	上顎臼歯排列	両側第一小臼歯排列
29	上顎臼歯排列	両側第二小臼歯排列
30	上顎臼歯排列	両側第一大臼歯排列
31	上顎臼歯排列	両側第二大臼歯排列
32	下顎臼歯排列	両側第一大臼歯排列
33	下顎臼歯排列	両側第二小臼歯排列
34	下顎臼歯排列	両側第一小臼歯排列
35	下顎臼歯排列	両側第二大臼歯排列 咬合確認
36	上顎歯肉形成	ワックス盛り上げ
37	上顎歯肉形成	唇側・頬側形成
38	上顎歯肉形成	口蓋部（S字状）・床縁（コルペン状）形成 表面仕上げ
39	下顎歯肉形成	ワックス盛り上げ
40	下顎歯肉形成	唇側・頬側形成
41	下顎歯肉形成	舌側・床縁形成 表面仕上げ
42	埋没（アメリカ式埋没法）	上顎一次埋没～三次埋没
43	埋没	下顎一次埋没～三次埋没
44	重合（加熱重合法・湿式2ステップ法）	流蠟 レジン填入 重合
45	上顎研磨	上下顎取り出し
46	上顎研磨	上下顎床縁形態修正
47	上顎研磨	粗研磨～中研磨
48	上顎研磨	上下顎床縁形態修正
49	上顎研磨	粗研磨～中研磨 レーズ研磨 仕上げ研磨
50	下顎研磨	粗研磨～中研磨
51	下顎研磨	レーズ研磨 仕上げ研磨
52	完成	洗浄
53	部分床義歯 模型製作	実習の目的 目標 部分床の構成要素 石膏注入
54	サベイング	サベイヤーの使用目的、構造および使用方法 サベイング
55	外形線記入	床、クラスプ、バーの外形線記入 設計線の区別
56	ブロックアウト	ブロックアウト リリーフ クラスプ外形線をデザインナイフでなぞる
57	基礎床製作	上顎圧接 形態修正
58	基礎床製作	下顎圧接 形態修正
59	咬合堤製作	上顎臼歯部作製
60	咬合堤製作	下顎臼歯部作製
61	スプリットキャスト製作	上下顎作製
62	咬合器装着	上下顎装着
63	リングルバー屈曲	参照用ワックスパターンの準備（レディキャストイングワックスを圧接）
64	リングルバー屈曲	屈曲

65	リンガルバー屈曲	屈曲
66	リリース	リンガルバー周辺のリリース クラスプ外形線をデザインナイフでなぞる
67	耐火模型製作	上下顎シリコンゴム印象 耐火模型材注入
68	耐火模型製作	表面処理 外形線模写
69	パラタルバーワックスアップ	シートワックス圧接 レディキャストワックス貼り付け
70	パラタルバーワックスアップ	インレーワックスで形成
71	埋没・鋳造	埋没・鋳造
72	上顎左側第2大臼歯 線鉤製作	ワイヤー屈曲(1.0mm) レスト板圧接
73	上顎左側第2大臼歯 線鉤製作	ワイヤー屈曲
74	上顎左側犬歯唇側 線鉤製作	ワイヤー屈曲(0.8mm)
75	上顎左側犬歯唇側 線鉤製作	ワイヤー屈曲
76	レスト製作	レスト・舌側鉤 ワックスアップ
77	上顎右側第2小臼歯 鋳造鉤製作 バックアクション	バックアクション ワックスアップ
78	下顎右側第1・第2小臼歯 鋳造鉤製作 双子鉤	双子鉤 ワックスアップ
79	下顎左側第1小臼歯 鋳造鉤製作 エーカーズ	エーカーズ ワックスアップ
80	下顎左側第2大臼歯 鋳造鉤製作 リング	リング ワックスアップ
81	埋没	埋没
82	鋳造・クラスプ熱処理	鋳造・クラスプ熱処理 鑢付前準備(埋没)
83	線鉤鑢付け リンガルバー & 双子鉤鑢付け	鑢付け
84	バー・クラスプ研磨	上顎研磨
85	バー・クラスプ研磨	下顎研磨
86	バー・クラスプ研磨	咬合調整
87	人工歯排列	上顎左側臼歯部排列
88	人工歯排列	上顎右側臼歯部排列
89	人工歯排列	下顎左側臼歯部排列
90	人工歯排列	下顎右側臼歯部排列
91	人工歯排列	削合調整
92	歯肉形成	上顎ワックス盛り上げ 頬側形成
93	歯肉形成	上顎口蓋側形成 表面仕上げ
94	歯肉形成	下顎ワックス盛り上げ 頬側形成
95	歯肉形成	下顎舌側形成 表面仕上げ
96	上顎埋没(FRPフラスコ)	上顎埋没(アメリカ・フランス併用式)
97	上顎重合 下顎埋没	上顎重合(ヒートショック法) 下顎埋没 スプルー ベント シリコンコア採得
98	下顎重合	下顎埋没(流し込み法)
99	研磨	上下顎取り出し
100	研磨	上下顎床縁形態修正 粗研磨~中研磨
101	研磨	レーズ研磨 仕上げ研磨 完成
102	個人トレー(上顎) 型製作・スパーサー 模	上顎模型作製 スパーサー レジン圧接

	103	トレー材料の圧接 柄の製作	レジン圧接 辺縁・厚さの修正 柄の作製
	104	形態修正	柄の形態修正
	105	研磨	研磨

授業科目	コミュニケーション学	担当教員	高野 文子		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	医療従事者として必要な思考力を育て、豊かな人間性を養うと共に主体的な行動できる態度を培う。				
到達目標	自らを知り他者を敬い、さまざまな問題について討議することができ、医療従事者医療人として相応しい身だしなみや接遇の表現ができる。				
テキスト・参考図書等	プリント等				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	レポート50%、提出物10%、その他としてプレゼンテーション40%とする。		
	レポート	50			
	小テスト	0			
	提出物	10			
その他	40				
履修上の留意事項	レポート、提出物は提出期限を守ること				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	人間関係が楽になる方法	人間関係がつかなくなる理由、心はどうやってつくられるのか、思い込みとは何か、無意識の領域、コミュニケーションとパターン、コミュニケーションの重要性。		
	2	なりたい自分になる	スタートアップ・ワーク、自分の価値基準と優先順位を知る、思い込みの種類、マイナスの思い込み、思い込みを変える方法。		
	3	コミュニケーションの目的	コミュニケーションの目的、自分を守るためのコミュニケーション、話すだけでは伝わらない、どんな人の話を聞きたいのか、言葉のキャッチボール、前提となる姿勢。		
	4	コミュニケーションの面白さ	正確に伝える難しさ ミスコミュニケーションの原因 ミスコミュニケーションの防止、エンパシーの姿勢、シンパシーの姿勢。		
	5	接遇表現<1> 相手を尊ぶ、挨拶	相手を尊ぶ挨拶、挨拶は何のためにするのか、挨拶の基本、表情、視線、声かけ、自分を整える、信頼感を得る身だしなみ。		
	6	接遇表現<2> 相手を尊ぶ、立ち振る舞い	相手を尊ぶ姿勢、態度、所作、立礼、お辞儀の種類と仕方、上座、下座、正中の考え方、立ち方、座り方、入退室の仕方、受け渡し方。		
	7	接遇表現<3> 相手を尊ぶ、話し方と言葉遣い	敬語とは何だろう、敬語の種類を知ろう、TPOに応じた使い分け、クッション言葉と婉曲表現。		
	8	社会人のコミュニケーション	組織とは何か、指示・命令の受け方、報告・連絡・相談の仕方、質問の仕方、メモの取り方、失敗時の対応。		
	9	社会人に必要な自立型の姿勢	人間の2大欲求、自立型姿勢の特徴、自立型と依存型、自立型人間と依存型人間の特徴、自立の定義、プラス受信自立型姿勢の6原則、自立型問題解決法。		
	10	医療倫理	医療倫理の四原則、法令等順守、患者中心の医療、インフォームド・コンセントとは、説明義務、インフォームド・コンセントの成立要件、インフォームド・コンセントの相手を知る。		
11	医療コミュニケーション実践	信頼関係を築くコミュニケーションスキル(承認のスキル・傾聴のスキル・傾聴の留意点) 質問の効果、質問のスキル、他職種とのコミュニケーション、他職種連携とチームワーク、場面別シミュレーション。			

	12	アサーション/モラル・ジレンマ	アサーションとは何か、三つの自己表現、アサーティブな自己表現の仕方、モラル・ジレンマとは何か、モラル・ジレンマからの学び、医療現場のモラル・ジレンマ。
	13	自分を知る	自分を知る五つの意義、二つの魅力（美点と欠点） 自己紹介と他己紹介、性質と性格、人から見た自分、棚卸しシート の作り方と見方、感情と行動からの自己探求、自分らしい選択。
	14	「思い」の伝え方	プレゼンテーションの目的、相手の心に響くプレゼンテーション、共感、感動、共感と感動のつくり方、プレゼンテーションの仕方。
	15	プレゼンテーションの実践	学生プレゼンテーション発表 アドバイス

